

## 海外プロジェクトの事例紹介セミナー(その2)

国際委員会 金井 裕史 | KANAI Hirofumi

### はじめに

国際委員会が2023年11月13日に開催した「海外プロジェクトの事例紹介セミナー」について、前回に続き5つの発表の内の後半2つの発表と質疑の概要及び参加者アンケートの結果を報告します。

#### 1. 日本の大規模自然災害に関する知見を海外と共有し災害対策を支援した取り組み(フィリピン、モザンビーク、ネパール)

パシフィックコンサルタンツ株式会社  
技術部長 千田 雅明

##### (1) 発表概要

東日本大震災をはじめとする日本の災害対応や復興計画の知見を海外での大規模自然災害の被災地で活かすことができた事例(フィリピンのヨランダ台風、ネパール地震、モザンビークのサイクロン被害への対策検討)を紹介しました。

東日本大震災の復興業務でのシミュレーションモデルを活用したハザードマップを提供することに加えて、ハザードマップによる分析を行った後にエリアマネジメントを組み込むことで総合的な土地利用計画へと発展させました。また、ハザードマップ作成に加えて行動計画のタイムラインを作成したうえでマニュアル化して住民へ防災教育を実施しました。

##### (2) 質疑応答

Q:フィリピンとモザンビークで大規模な台風・サイクロンの災害を検証してハザードマップや避難計画を検討されていますが、日本と両地域の課題や対策にどのような相違があったか特徴的なものをご教示ください。

A:フィリピンでは台風が来ているにもかかわらずメディアからの情報が伝わっていないため、欧米のドナーが旗を振って知らせるような場面がありました。ネパールでは防災教育が徹底されておらず、判断の誤りから人命が失われる場面がありました。一方、支援によって学んだことを自身の取り組み・行動に移す努力においては優れているところがあり、エリアマネジメントが進んだのは現地の方々の吸収力の良さによるところが大きいと感じました。

#### 2. インドネシア国アサハンNo.3水力発電

日本工営株式会社 所長代理 山村 賢輔

##### (1) 発表概要

インドネシア国北スマトラ州アサハン第3水力発電所(流込み式、174MW、1,474GWh)を建設することで州都メダンを含む北スマトラ系統の電力供給能力を向上させ、同系統の電力需給逼迫の緩和及び供給の安定性の改善を図ることを目的としています。2010年6月より施工監理のE/Sを開始し、準備工事(アクセス道路改修とベースキャンプ建設)は終了したものの、用地収用の遅れから本体工事が遅延していました。2019年によりやく着工し、2024年6月の運転開始を目指しています。

##### (2) 質疑応答

Q:入社以来海外プロジェクトに携わってこられたとのことですが、ご自身の技術研鑽はどのような方法で行ってこられましたか?

A:一緒に働いたのは日本人が多かったので、日本の技術を使いプロジェクトを進める中で研鑽できました。

Q:計画から施工の間に現地の状況により計画段階で想定していなかったこととその影響についてご教示く

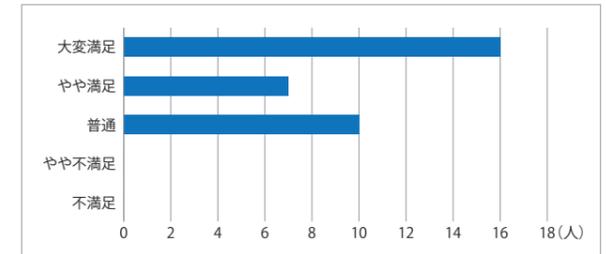
ださい。

A:一番大きな影響を受けたのは、用地買収が完了せず、かつ完了目途が立たなかったことです。

### 参加者アンケートの結果

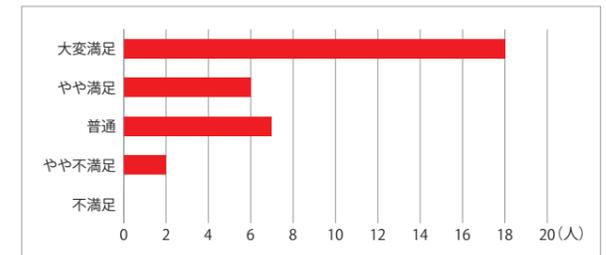
以下に、本セミナーで発表した5件について満足度に関する事後アンケートを実施しました。また、全体的なご意見・ご感想についても主なものを示します。

#### a) インドネシア国インフラ復興セクターローン業務



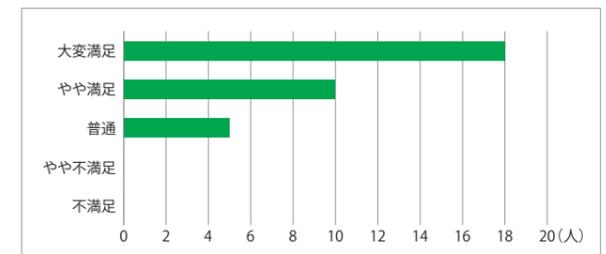
・事業スキームについて理解しやすいものでした。登壇者のキャリアについても言及があり、今後海外事業を志す上で将来計画の参考になりました。

#### b) マダガスカル国国道2号線橋梁改良計画



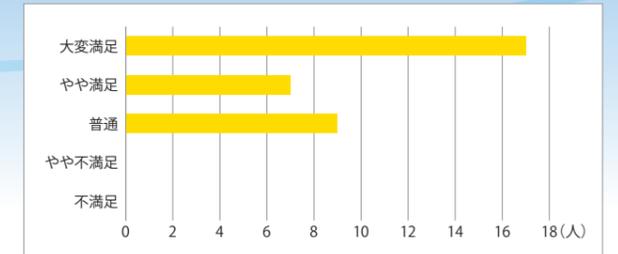
・橋梁においても日本の技術がアフリカでも通用しており、現地の方々、特に学生に注目されているのが大変興味深く感じました。

#### c) カンボジア国コンテナターミナル経営・技術向上プロジェクト



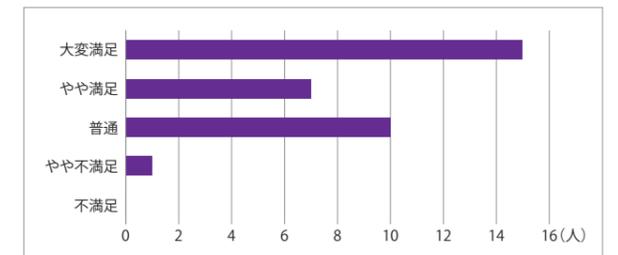
・登壇者の中で唯一の女性でしたが、渡航中に女性という点で困った点がありませんでしたという発言にはたくましさを感じました。今後益々女性が活躍できる環境作りが進むことを期待します。

#### d) 日本の大規模自然災害に関する知見を海外と共有し災害対応を支援した取り組み



・復旧工の手法の提案や交渉等、言語の壁を越えての交渉は、技術者としてだけではない能力が要求される大変な役割だと感じました。

#### e) インドネシア国アサハンNo.3水力発電



・海外案件は日本と異なり土地収用が進んでいないにもかかわらず事業が進行し大きな工事遅延が発生する点で海外事業の進め方の難しさが分かりました。

また、全体的なご意見・ご感想は以下の通りです。  
・海外事業に携わることを志す若手として刺激の多い2時間でした。技術的な話よりも海外での苦労や海外に行く前に身に付けておくべきスキルといった分野横断的な話があるのもっと充実したものになったのではと感じました。

・1件当たりの発表時間が短い点が残念でした。もう少し掘り下げた説明が聞きたいと思いました。

### おわりに

国際委員会では、今年度も海外業務への新規参入を検討されている協会員の皆様にとって参考となるセミナー等を開催していく予定です。会員の皆様で、海外業務への新規参入にご興味または関連するご相談等がございましたら、国際委員会までお気軽にお問い合わせください。